令和４年度　第８回　ネット・モニターアンケート

「農業文化園・戸田川緑地南地区」について

■アンケートの趣旨

本市の港区には戸田川両岸に広がる「戸田川緑地」と、戸田川緑地の南地区に隣接し花と水稲をテーマにした「農業文化園」があります。

このアンケートは、「農業文化園」と戸田川緑地の南部分に位置する「戸田川緑地南地区」に対する市民の皆さまの考え方やご意見をおたずねし、今後の運営やさらなる魅力向上のための参考とさせていただくものです。

■説明・前提条件

Ｑ１：必須 ・選択数１つ	Ｑ２：Ｑ１の選択による ・選択制限なし	Ｑ３：Ｑ１の選択による ・選択制限なし	Ｑ４：Ｑ１の選択による ・選択制限なし
Ｑ５：必須 ・選択制限なし	Ｑ６：必須 ・選択制限なし	Ｑ７：必須 ・選択制限なし	Ｑ８：必須 ・選択制限なし
Ｑ９：必須 ・選択数１つ	Q10：Ｑ９の選択による ・選択数２つ	Q11：任意 ・自由記載	

- ► 年代・居住区・性別の属性は事前に登録されたモニターの属性から取得
- ► 比率はすべて、各質問の回答者数に対するパーセントで表し、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出（このため、合計が 100%にならないことがある）
- ► 複数回答が可能な質問については、各項目の比率の合計は通常 100%を超える

■アンケート実施期間

令和４年 11 月 11 日（金） から 令和４年 11 月 21 日（月）まで

■モニター数・アンケート回答数

対象モニター数： 500 人　　回答数： 463 人　有効回収率： 92.6%

■問い合わせ先

調査テーマに関すること
緑政土木局　都市農業課
電話：052-972-4071　　ＦＡＸ：052-972-4141
E-Mail：a2461@ryokuseidoboku.city.nagoya.lg.jp

調査概要に関すること
スポーツ市民局　広聴課
電話：052-972-3139　　ＦＡＸ：052-972-3164
E-Mail：net-moni01@sportsshimin.city.nagoya.lg.jp

回答集計

※各図表の「N」は、回答者数を表しています。

【参考資料】関連リンク：農業文化園・戸田川緑地
http://bunkaen-todagawa.jp/

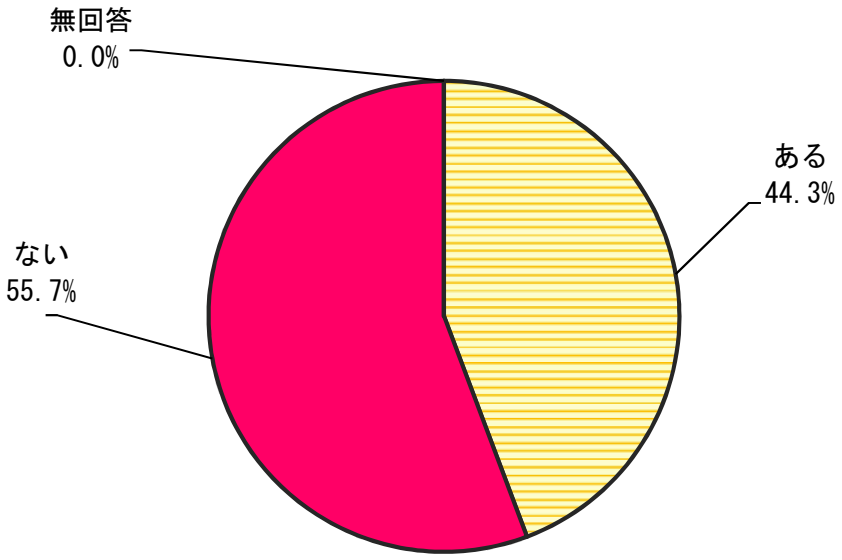
＜利用について＞

「農業文化園」は都市農業の振興とレクリエーション活動の場の提供を目的とした農業公園で、中心的な施設は、農業の過去・現在・未来をテーマにした農業技術史コーナーや世界の昆虫標本室を設けた農業科学館とフラワーセンターです。
また、隣接した「戸田川緑地南地区」にはピクニック広場（バーベキュー場）、体験農園（畑）、芝生広場、とだがわこどもランド等があり、とだがわ陽だまり館では野菜などを購入できます。

【参考資料】添付１：「農業文化園・戸田川緑地南地区」案内図

Ｑ１【※必須】あなたは、「農業文化園・戸田川緑地南地区」に行ったことがありますか。
（選択は１つ）

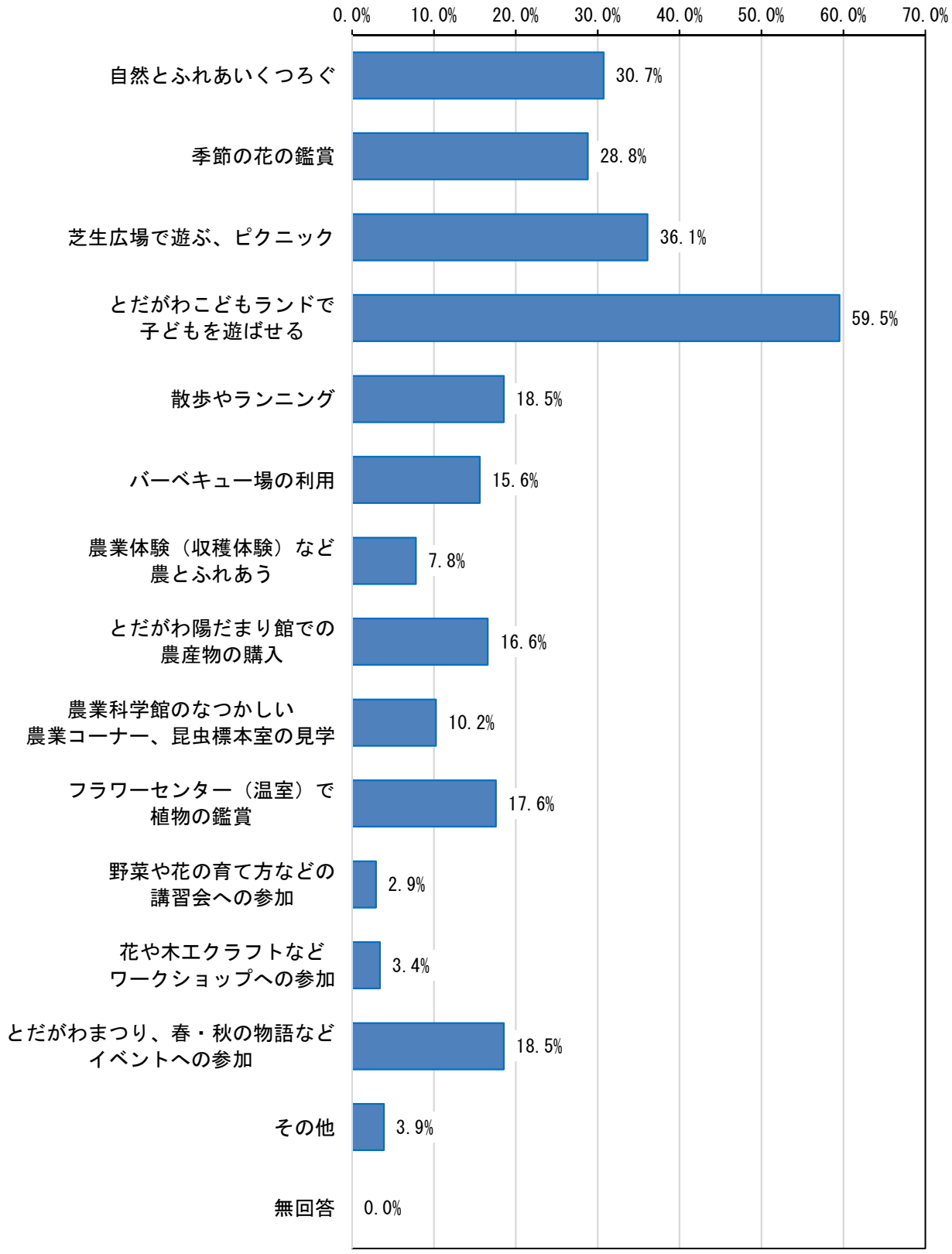
Ｎ＝463



【Ｑ２～３は、Ｑ１で「農業文化園・戸田川緑地南地区」に行ったことがあると答えた方（「ある」と回答した方）におたずねします。】

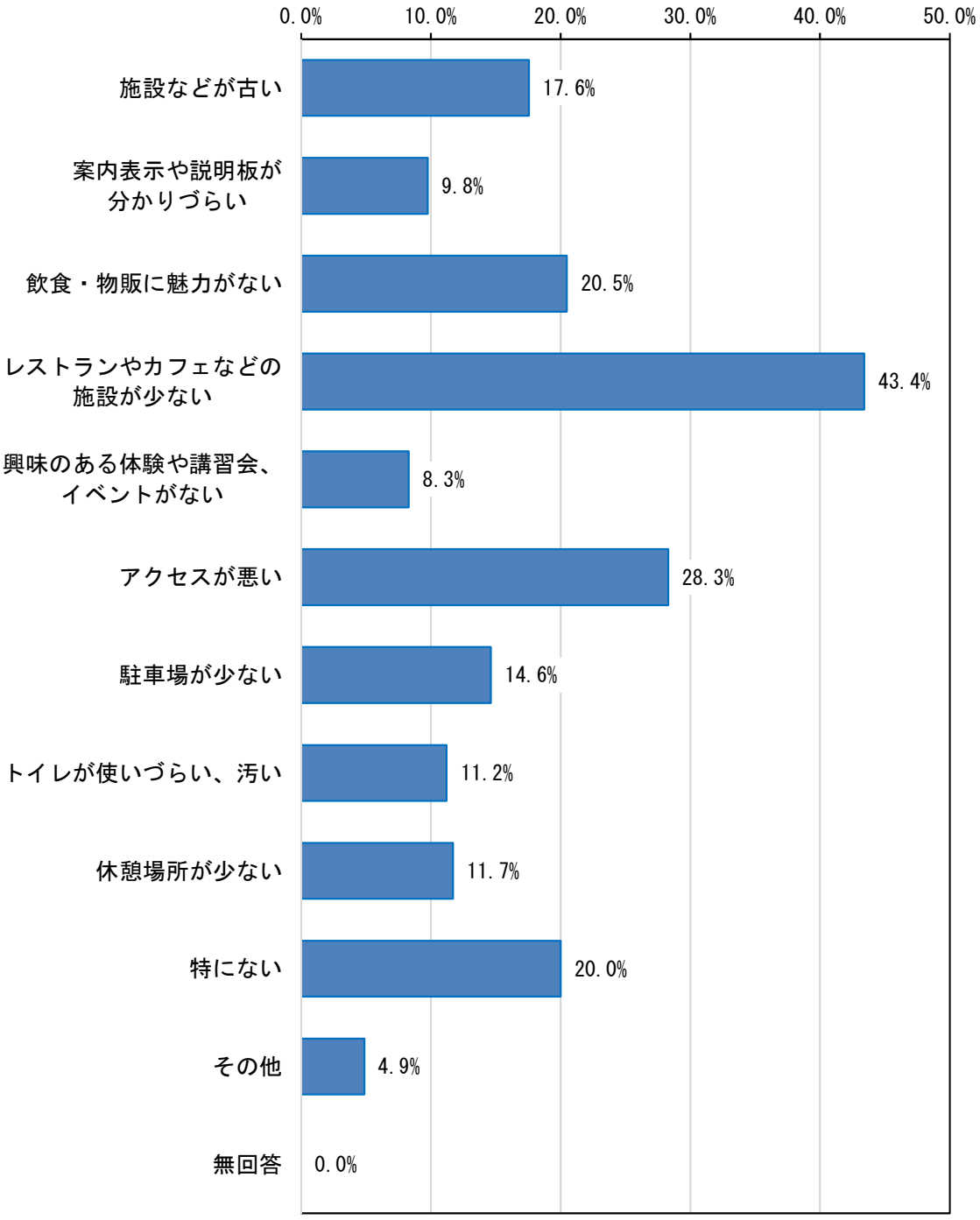
Ｑ２　あなたは、何を目的に「農業文化園・戸田川緑地南地区」に行きましたか。
（選択はいくつでも）

Ｎ＝205



Ｑ３　あなたは、「農業文化園・戸田川緑地南地区」の何が不満でしたか。
（選択はいくつでも）

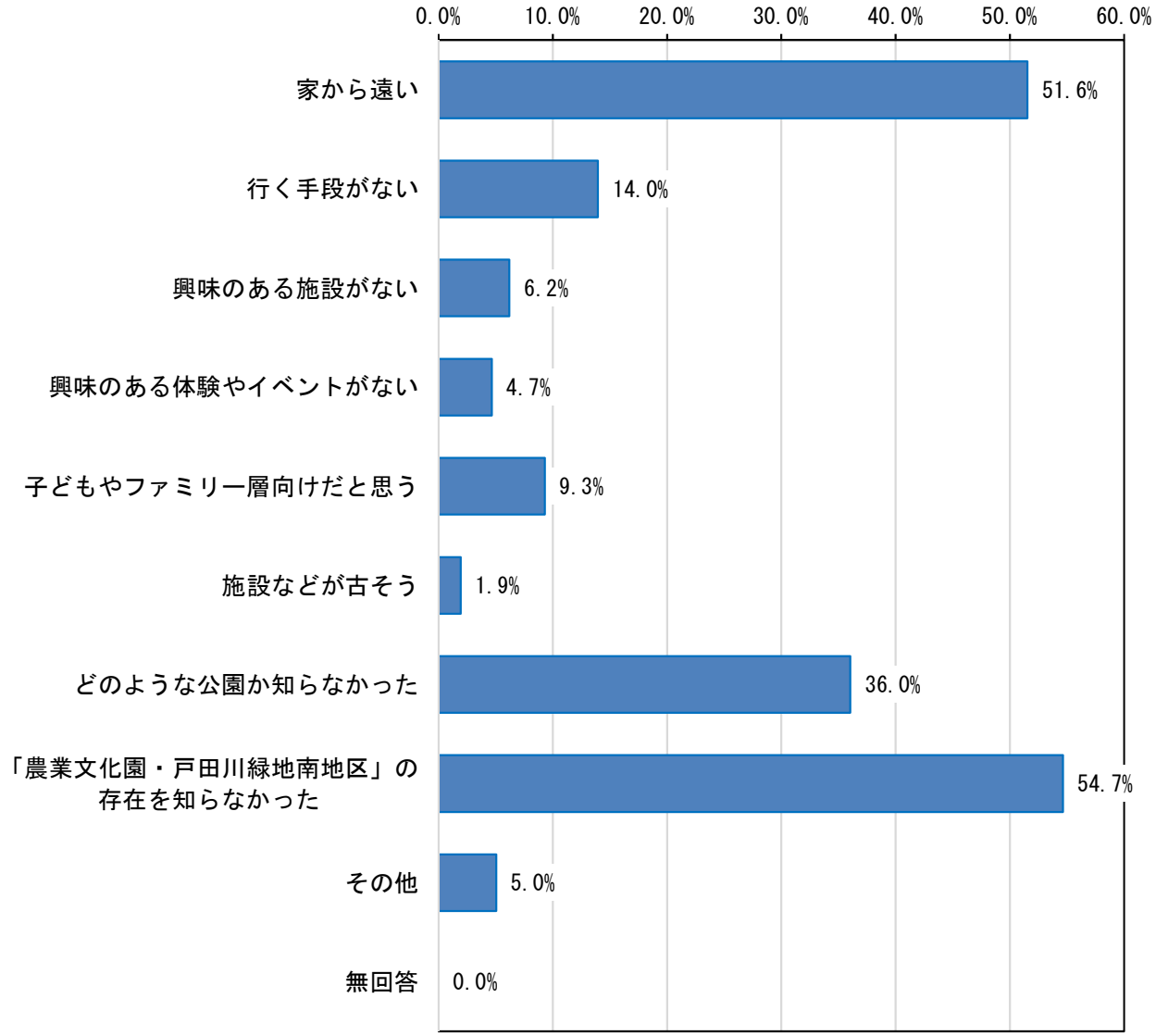
Ｎ＝205



【Ｑ４はＱ１で「農業文化園・戸田川緑地南地区」に行ったことがないと答えた方（「ない」と回答した方）におたずねします。】

Ｑ４　あなたが、「農業文化園・戸田川緑地南地区」に行ったことがない理由は何ですか。（選択はいくつでも）

Ｎ＝258



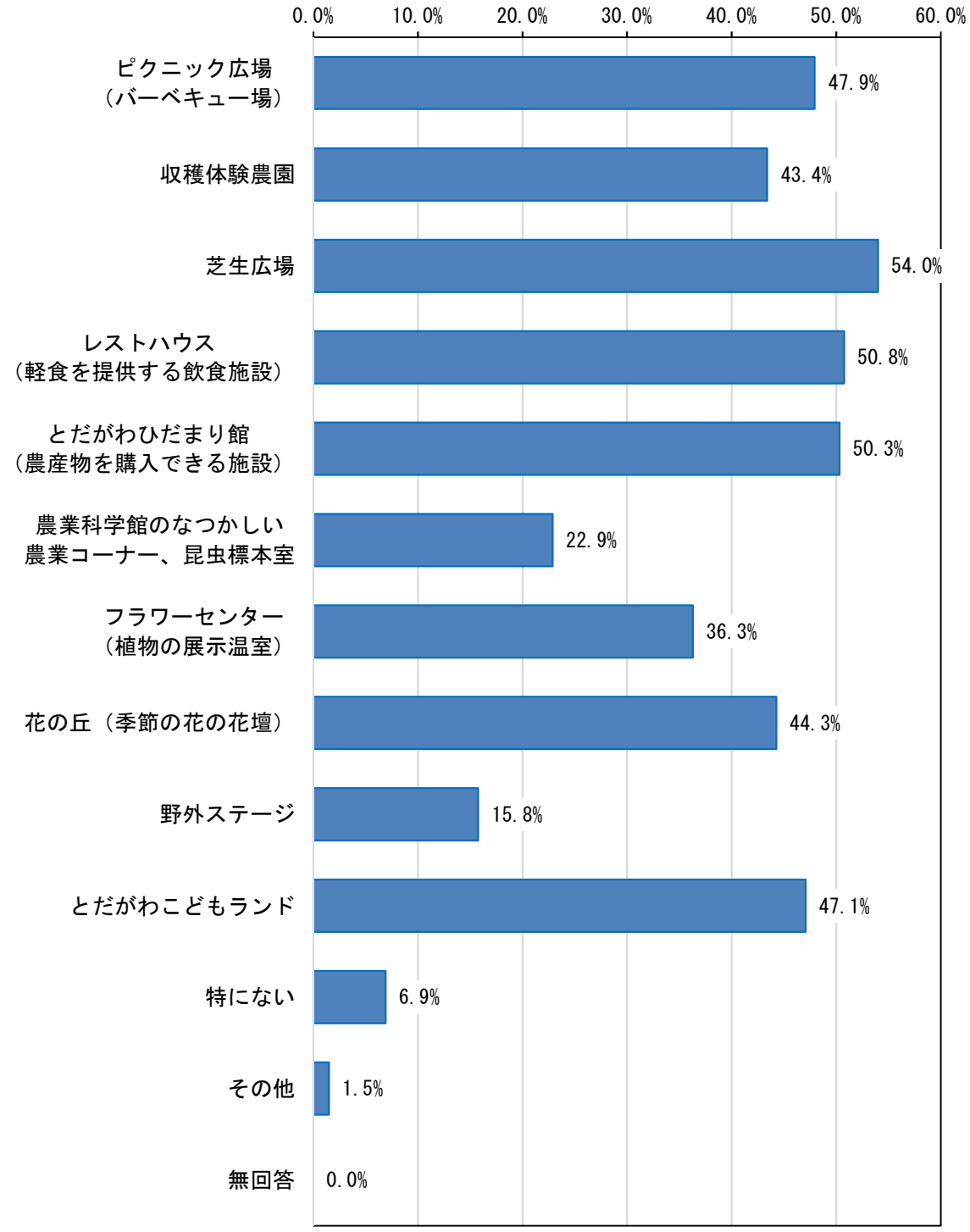
【すべての方におたずねします。】

＜今後の構想について＞

「農業文化園・戸田川緑地南地区」は農をテーマとした公園として開園以来多くの方に親しまれています。今後、地域の特色を生かしたより魅力のある公園とするため、農の発信機能を強化し、新しい施設や店舗の導入を検討しています。

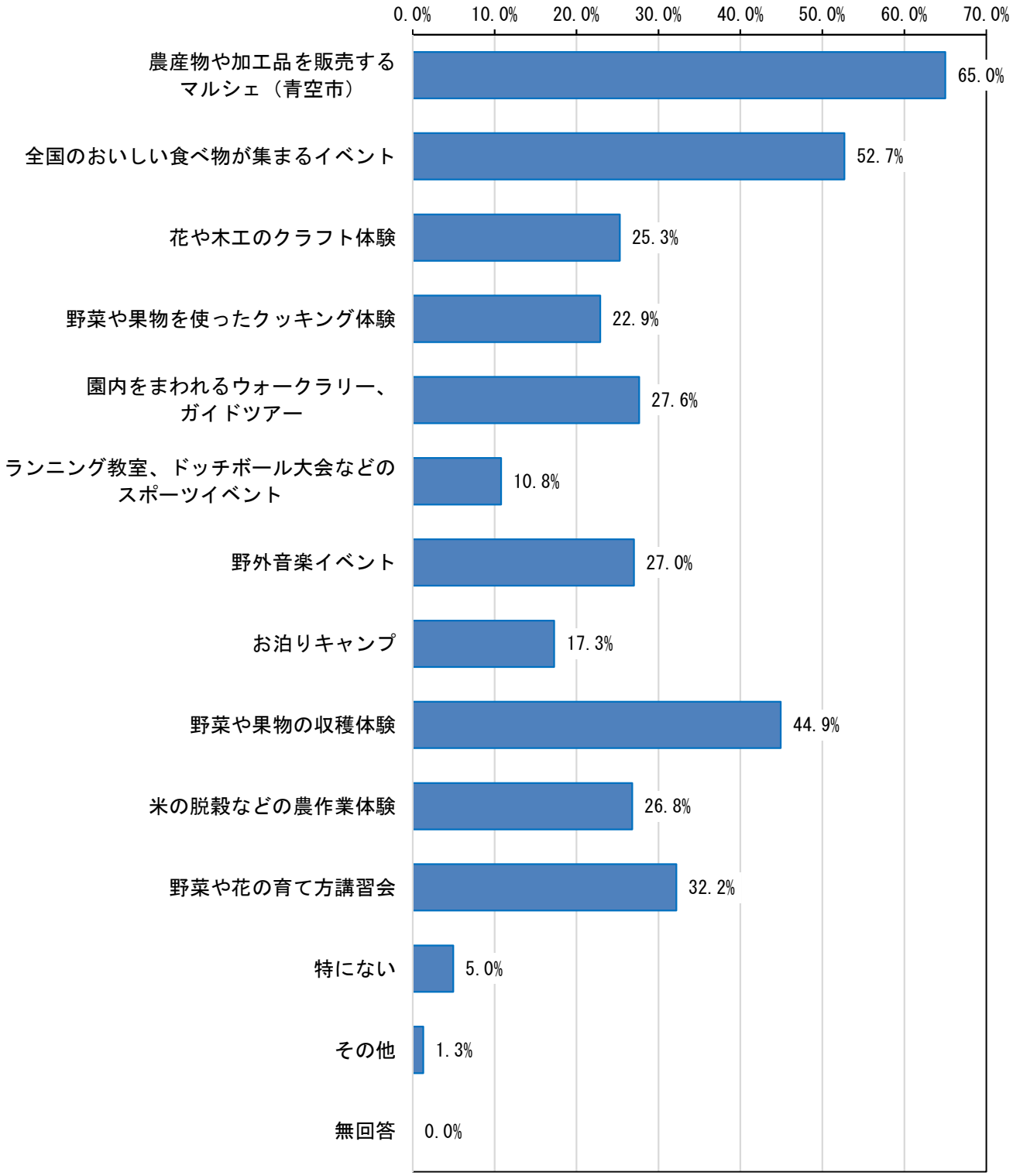
Ｑ５【※必須】「農業文化園・戸田川緑地南地区」にある施設のうち、あなたが残ってほしいと思う場所はどこですか。（選択はいくつでも）

Ｎ＝463



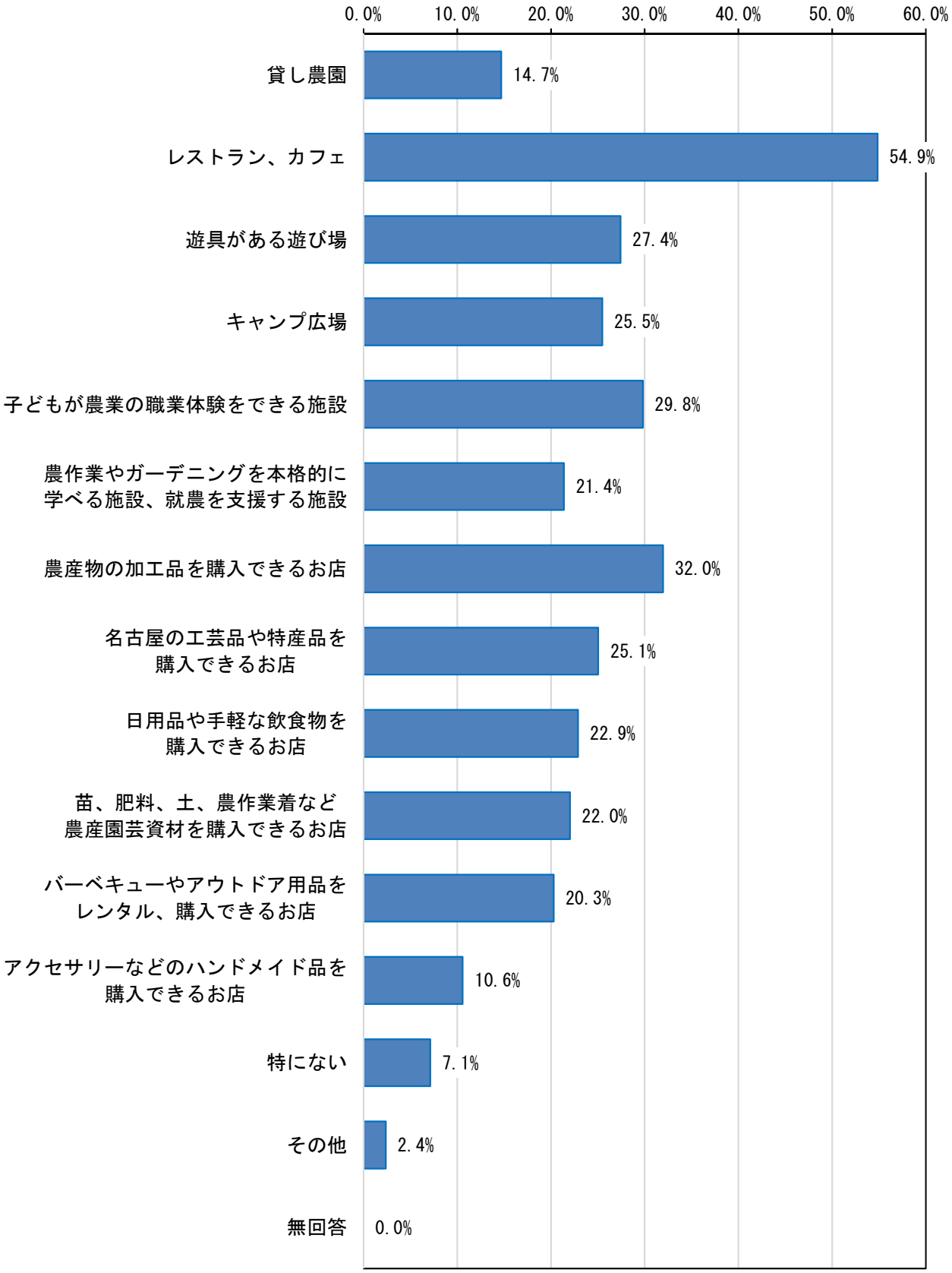
Ｑ６【※必須】「農業文化園・戸田川緑地南地区」で今後、イベントを開催するとしたら、あなたは何に参加してみたいと思いますか。（選択はいくつでも）

Ｎ＝463



Ｑ７【※必須】「農業文化園・戸田川緑地南地区」に今後、新しい施設ができるとしたら、あなたは何を利用してみたいと思いますか。（選択はいくつでも）

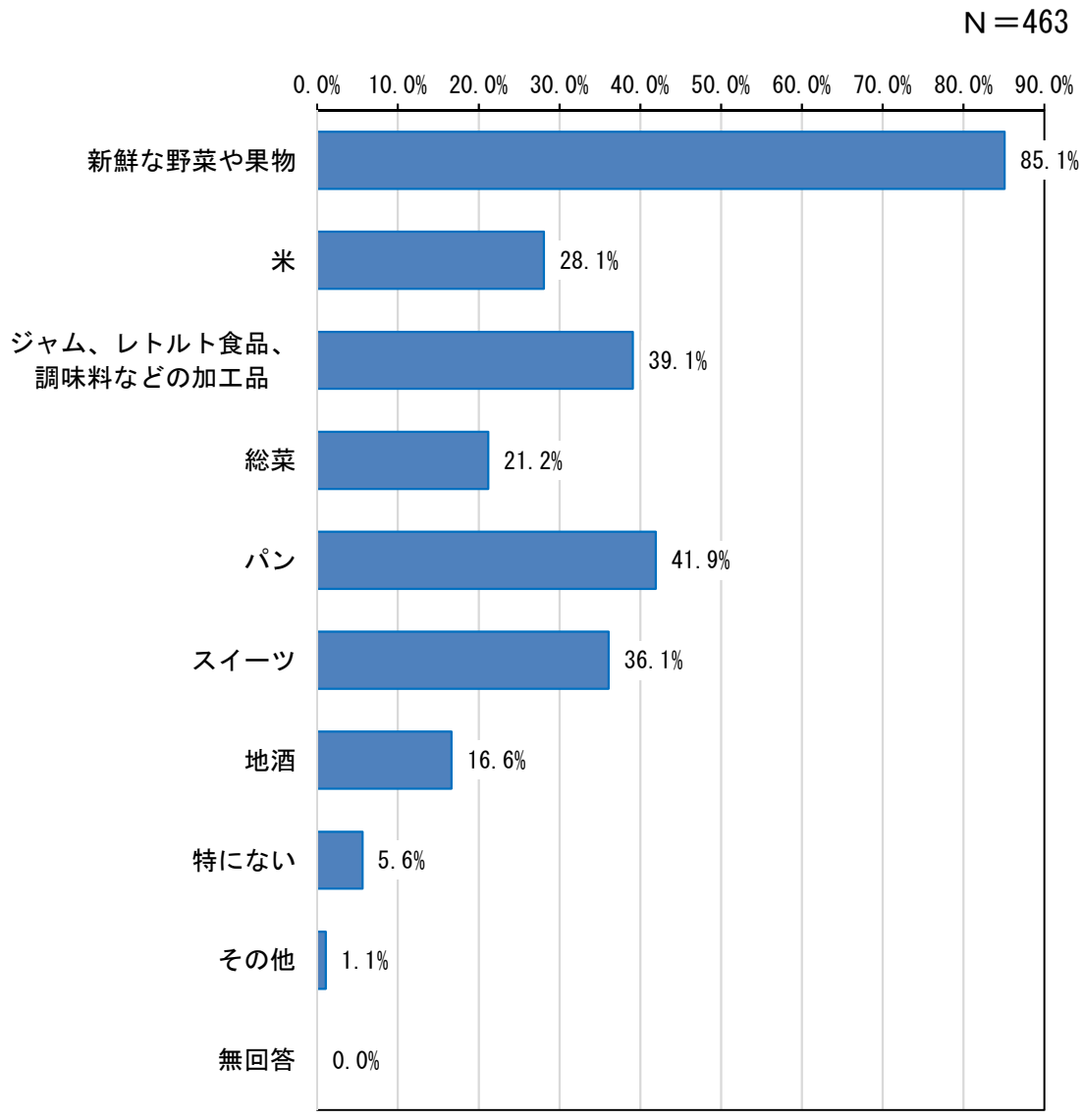
Ｎ＝463



「農業文化園・戸田川緑地南地区」は市内でも農業が盛んな南陽地区に位置し、地域では主に米やスイートコーンなどの農産物が生産されています。
現在でも農産物の販売や年２回のマルシェ（青空市）が開催されており、継続的に市内の農業を支援する取組を検討しています。

【参考資料】添付２：「なごやの農業」パンフレット

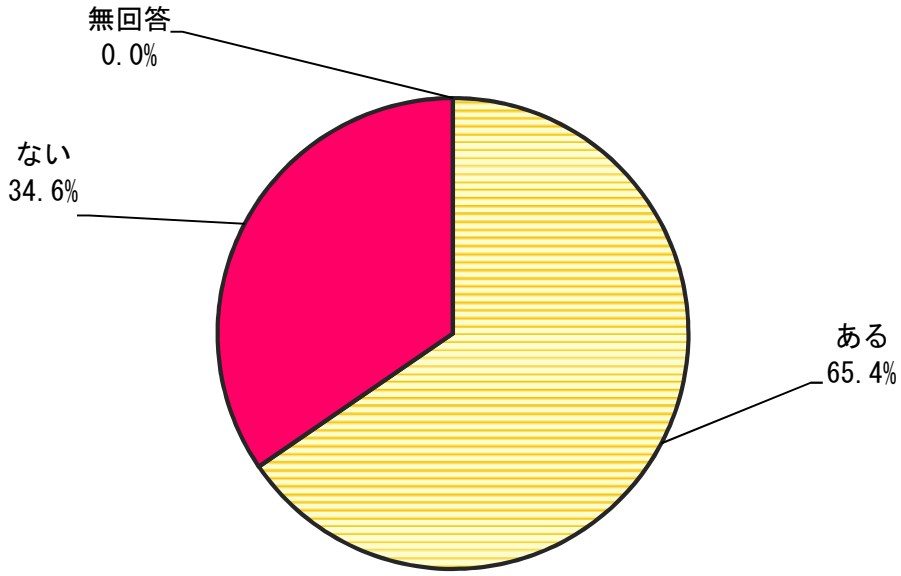
Ｑ８【※必須】あなたが、「農業文化園・戸田川緑地南地区」で購入できたら良いと思う農産物や農産加工品は何ですか。（選択はいくつでも）



近年、飲食・物販施設などを導入した公園や、食や農をテーマとしたリゾート施設や道の駅など、様々な魅力ある施設が各地にオープンし、カフェやショップ、地元農産物の直売やレストラン、体験農園などを目当てに、多くの利用者が訪れています。
「農業文化園・戸田川緑地南地区」についても、今後、施設や体験を充実させ、全国の魅力ある施設のように何度も訪れたくなる公園にしたいと考えています。

Ｑ９【※必須】あなたは、半日程度で回れる公園、複合施設、道の駅のうち、ここ３年の間に２回以上訪れたところがありますか。（選択は１つ）

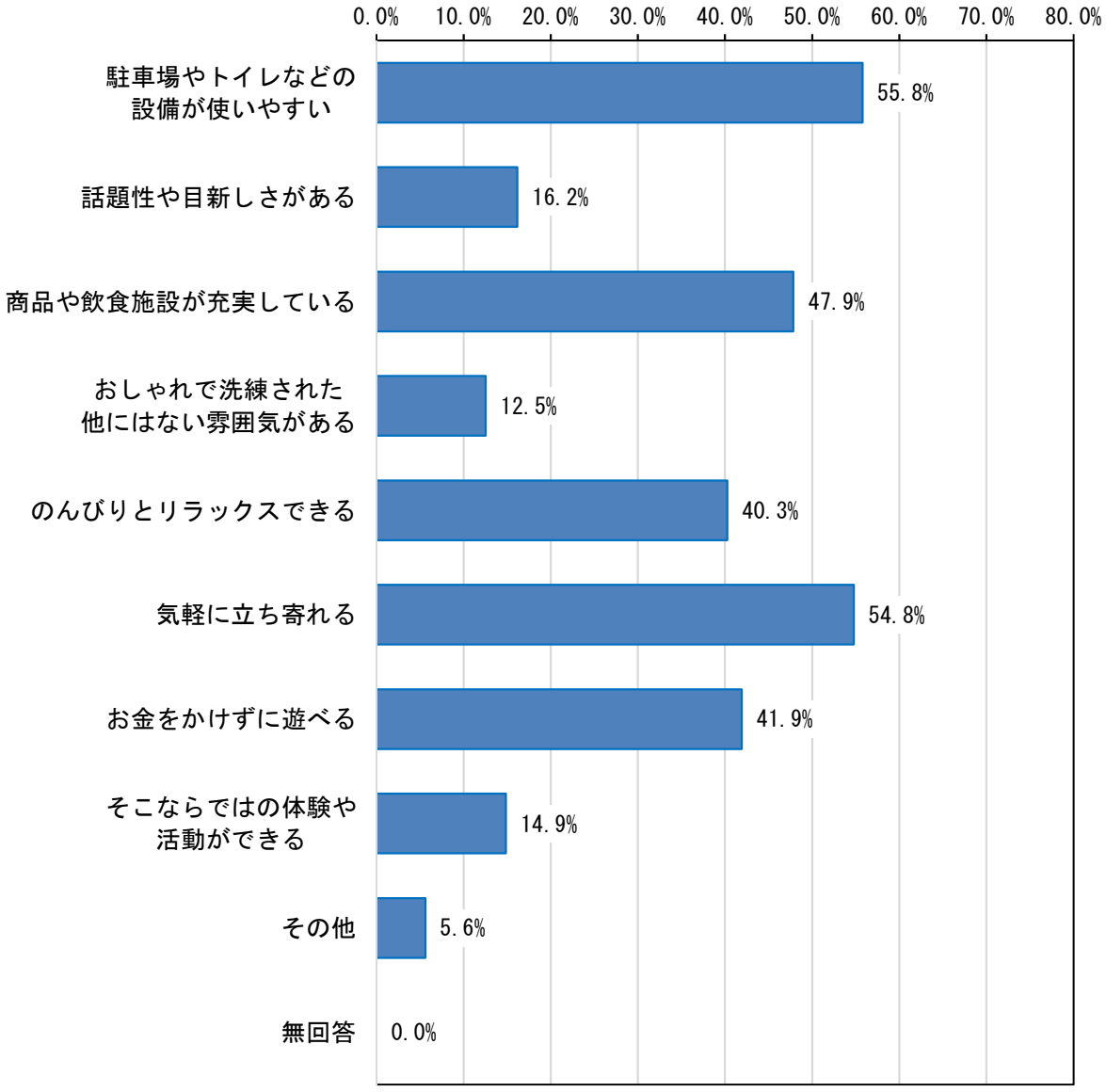
Ｎ＝463



【Q10は、Ｑ９で半日程度で回れる公園、複合施設、道の駅でここ３年の間に２回以上訪れたところがあると答えた方（「ある」と回答した方）におたずねします。】

Q10　あなたが半日程度で回れる公園、複合施設、道の駅をここ３年の間に２回以上訪れた主な理由は何ですか。（選択は２つ）

Ｎ＝303



【すべての方におたずねします。】

Q11　「農業文化園・戸田川緑地南地区」について、ご意見があればご自由にご記入ください。

N＝214

・子供が幼い頃に利用させていただきました。
親子でのんびりとお金をかけずに楽しむには最適な場所だと思います。
美しい自然を残しながらも、ゆったりくつろげるオープンカフェや地元野菜が食べられるレストランを開業したり、ジャグリングや大道芸などの観覧が楽しめると、さらなる集客が期待できるのではないでしょうか。

・ 遠くても行ってみたいと思えるような場所になれば良いなと思います。お得で新鮮なあらゆる種類の野菜の販売、のんびりできる所があったり、ペットも一緒に遊べたら良いのかもしれません。

・ 農業に興味があるので、気軽に農業を学べたり、体験できたりする施設ができるといいと思います。就農につながるお世話までしてくれたら最高です。

・ 少し遠いが子どもがのびのびと遊べるので行きたい施設の一つだが、土日祝日だと駐車場が満車の為ハードルが高くなっている。
車での利用者が多いので、まずは駐車場の拡充をしてほしい。

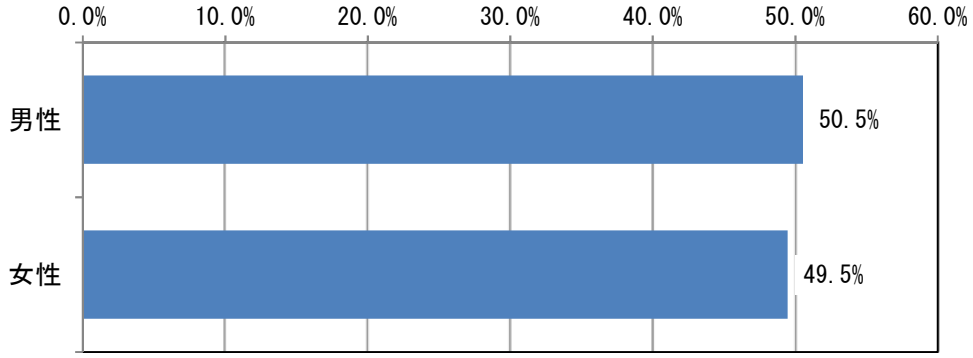
・ 市内に住んでいるのに、こういう施設があるということを知りませんでした。PR が足らないのでは？
イベントとか体験できる施設とか半日過ごせる施設があったら行きたいです。

ほか

■属性集計

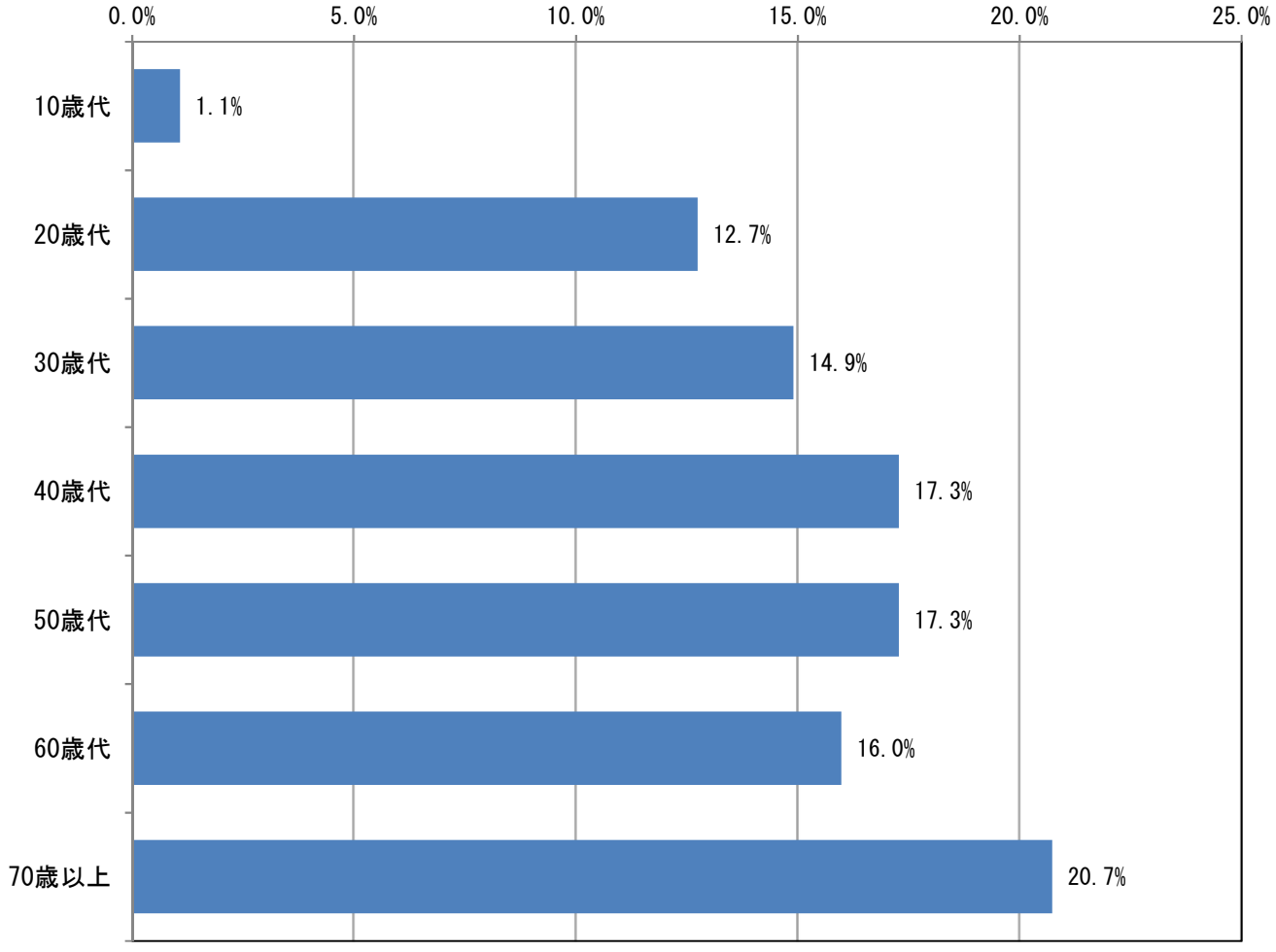
性　別

	全体	男性	女性
%	100.0%	50.5%	49.5%
回答者数	463	234	229



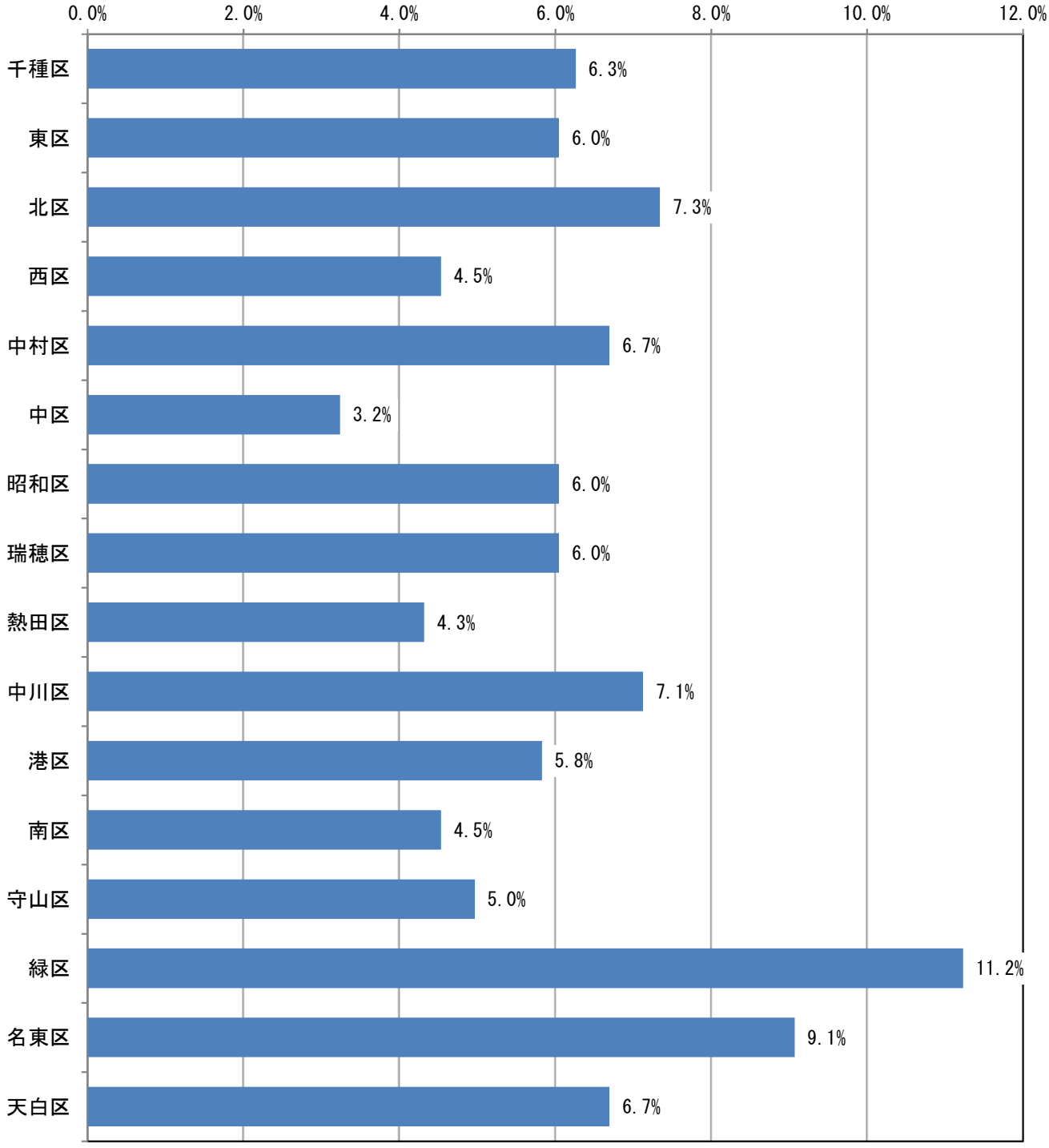
年　代

	全体	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上
%	100.0%	1.1%	12.7%	14.9%	17.3%	17.3%	16.0%	20.7%
回答者数	463	5	59	69	80	80	74	96



居 住 区

	全体	千種区	東区	北区	西区	中村区	中区
%	100.0%	6.3%	6.0%	7.3%	4.5%	6.7%	3.2%
回答者数	463	29	28	34	21	31	15
		昭和区	瑞穂区	熱田区	中川区	港区	南区
		6.0%	6.0%	4.3%	7.1%	5.8%	4.5%
		28	28	20	33	27	21
		守山区	緑区	名東区	天白区		
		5.0%	11.2%	9.1%	6.7%		
		23	52	42	31		



【参考資料】

添付１：

「農業文化園・戸田川緑地南地区」案内図

ようこそ農業文化園・戸田川緑地へ

【参考資料】

添付２：「なごやの農業」パンフレット

なごやの農業

名古屋市内で農業？と意外に思われる方もあるかもしれません。身近なところに息づいている都市の中の「農」にぜひ目を向けてみてください。
現在のなごやの農業の姿をご紹介します。

■ 農地面積・農家人口
（令和２年度）

農地面積(ha)		
総数	田	畑
1,119	594	526

農家数(戸)	農家人口(人)
2,791	10,639

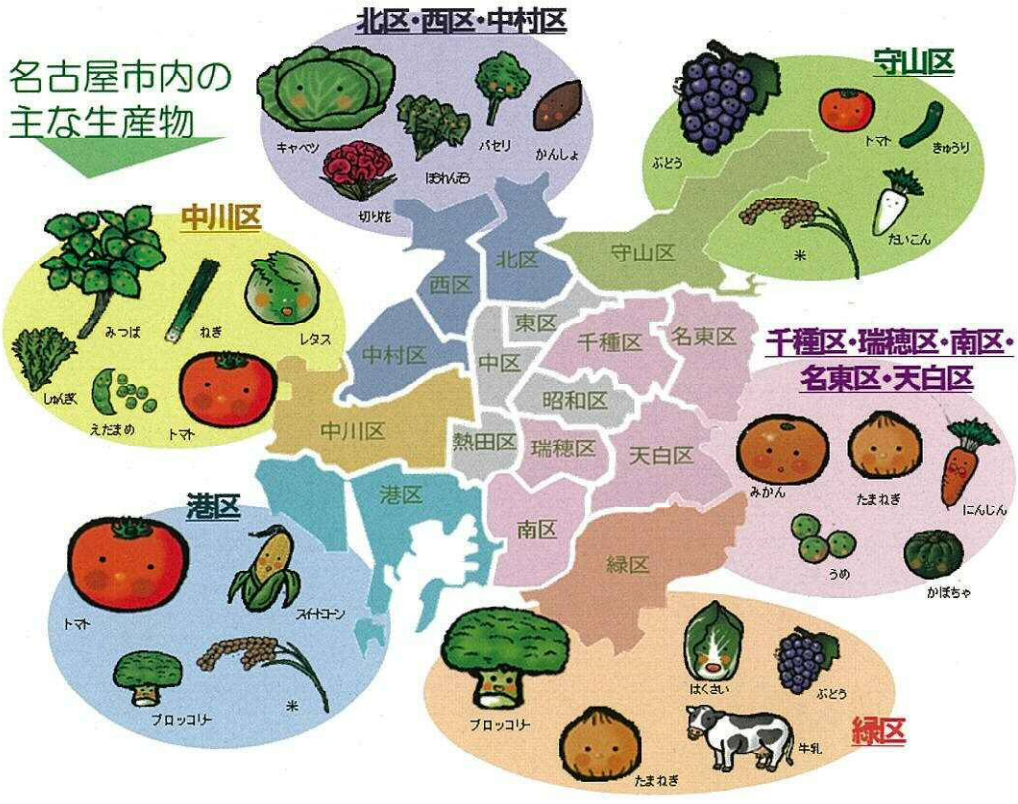
■ 野菜生産量 TOP10
（令和2年度）

地域ごとに特色のある農産物が生産されています。
朝市や直売イベント、スーパーの地元野菜のコーナー等で販売されています。

■ 市内農産物 生産状況および自給率推計 （令和２年度）

		作付面積・飼育数	生産量	生産額(千円)	自給率(%)
米		453 ha	2,320 t	370,672	1.8
野菜		71 ha	2,207 t	577,445	1.0
果実		28 ha	332 t	180,212	0.3
花き	切り花	4 ha	317 千本	13,640	—
	鉢物	1ha	39 千鉢	23,952	—
	花壇用苗物	0.1 ha	40 千鉢	2,700	—
乳牛		56 頭	466 t	54,486	0.6
肉牛		31 頭	9 t	13,818	—
鶏卵		120 羽	2 t	310	0.00
蜂蜜		464 群	12 t	43,382	—
その他		—	—	2,352	—
合計		—	—	1,282,969	—

※米の作付面積、生産量については、東海農政局のデータ、その他はセンサス２０１５を基にした名古屋市調査による。

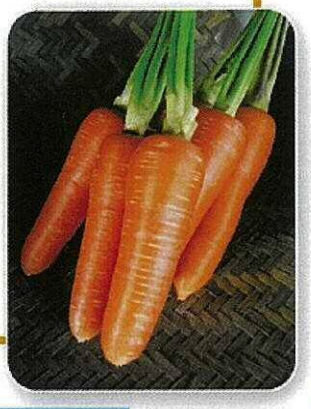


なごや生まれの伝統野菜

八事五寸にんじん（やごとごすん）

八事五寸にんじんは、大正8年に天白区の農家が、東京の種苗会社より導入したニンジンの種から選抜したのがルーツとされています。当時、市場での評判がとても良かったので、産地では生産を徐々に増やし、昭和初期には、東京や大阪の市場を始め、香港へも輸出されていたそうです。毎年良い形質のニンジンを選抜し、それを親にする方法で、天白区で受け継がれてきました。

色が濃く、肉質が良く、甘みが強く、味付きが良いので、煮てもサラダでもおいしい昔ながらのニンジンです。



大高菜（おおだかな）

大高菜は緑区大高地区で古くから栽培されている漬菜の一種で、江戸時代末期のこの地方の名勝や名産などを描いた「尾張名所図会」にも登場します。また同じ頃に編纂された「尾張志」には、「大高菜の栽培では肥料に海草を使い、葉の長さは約90cm、葉や茎が柔らかで塩漬けに適する。」などと書かれています。

現在は、家庭菜園で栽培される程度ですが、名古屋を代表する地場野菜として、広く知っていただきたい野菜のひとつです。お雑煮やおひたしのほか、春には若い花芽を摘んで辛子和えにもできます。

愛知大晩生キャベツ（あいちだいばんせい）

愛知大晩生キャベツは、昭和20年代後半から中村区岩塚町で栽培と採種が続けられています。収穫までの期間が長く、結球葉が硬くて日持ちがよく甘いので、串カツの付け合せや焼きそばに重宝され、とくに庄内川の河川敷の畑のものが、締まりが良く味も良いとされてきました。

当時、4～5月に収穫できるキャベツの品種が少なく栽培が盛んでしたが、この時期にとれる品種の開発が進み、現在では栽培農家が非常に少なくなっています。

野崎白菜2号（のざきはくさいにごう）

今では鍋物や漬物ですっかりおなじみの白菜ですが、明治8年（1875）に中国から渡ってきた比較的新しい野菜です。野崎白菜2号は、明治18年（1885）に野崎徳四郎氏が愛知県より入手した山東白菜をもとに改良した品種です。入手当初はうまく結球せず、試行錯誤を重ねたそうです。明治26年頃には名古屋白菜又は山東白菜と言って市場に出荷するようになったものを、大正5年（1916）、(株)野崎採種場で野崎白菜2号と命名し平暖地で広く作られるようになりました。

球の大きさは中くらいで品質がよく、葉肉が厚くて柔らかく美味しい白菜です。病害に弱く、日持ちがしないため、現在ではあまり作られなくなってしまいましたが、中川区が発祥地となる代表品種です。

■ なごやの農産物が購入できる場所 （令和4年3月現在）

	朝市・青空市・直売所など （不定期開催の場所もあります）					
千種区	JAなごや千種支店朝市					
東区	オアシス21オーガニックファーマーズ朝市村					
北区	大曽根朝市					
中村区	日比津わくわく市(JAなごや日比津支店)		ナナちゃんストリートオーガニックタぐれ市			
中川区	飯田農園	ふたむら農園	荒子円空市	JAなごや富田支店朝市	JAなごや五反田支店朝市	
港区	とだがわ陽だまり館（直売所）		名古屋みなと農園ストア			
	ラ・クレマ		JAなごや南陽町支店朝市			
南区	平和堂ビバモール名古屋南店					
守山区	JAなごや守山支店朝市		JAなごや守山東支店グリーンセンター		JAなごや志段味支店朝市	
	小幡生玉稲荷朝市	ぽかぽか温泉朝市	東谷山フルーツパーク売店(直売所)		しだみファーマーズクラブ朝市	
緑区	JAなごや大高支店朝市		JAみどり桶狭間支店土曜朝市		鳴海団地朝市	
	JAみどり本店朝市		JAみどり徳重支店土曜朝市		みどりオーガニックマーケットin南生協病院	
	平和堂グリーンプラザ店		コープ大高インター店		オサムファーム	
天白区	JA天白植田駅前支店朝市		JA天白グリーンセンター（直売所）		野並朝市	
	農業センター青空市		農業センターなごやか市場(直売所)		平針南産直朝市	

農　と　の　ふ　れ　あ　い

■ 農業公園

気軽に「農」とふれあえる３つの農業公園があります。充実した各種講習の他に、野菜の収穫体験や羊毛マスコットづくり、果樹の栽培教室、お米作り体験教室等、それぞれの特徴ある催しが行われています。

農業センター　delaふぁーむ

天白区天白町大字
平針字黒石2872－3
☎ 801－5221

農業指導館・牛舎・放牧場・
栽培温室・展示鶏舎・野菜
畑・ミルク工房

農業センターまつり

放牧場

しだれ梅

東谷山フルーツパーク

守山区大字上志段味字
東谷2110
☎ 736－3344

熱帯果樹温室

しだれ桜

世界の熱帯果樹温室・
果樹園・四季の花園・
くだもの館・レストラン・
フィッシングコーナー

農業文化園

港区春田野二丁目3204
戸田川緑地管理センター
☎ 302－5321

フラワーセンター

農業科学館・
フラワーセンター・
花と野菜のにじ色農場

農業科学館

■ 農のある暮らしづくり（農園）

育てる喜び、収穫の楽しみを味わうことができます。詳しくは、「広報なごや」または名古屋市公式ウェブサイトをご覧ください。

市民農園　（令和４年度予定）

利用期間や運営方法など農園によってタイプが異なります。お近くの自分にあった農園を探してみてください。
この他にも、農家が自ら開設する農家開設型農園、農業体験農園などもあります。

	憩いの農園	コミュニティ農園	みのりの農園	市民菜園	分区園緑地
開設数	7か所	9か所	2か所	1か所	3か所
利用期間	1年	3年		1年	
問合先	名古屋市都市農業課　電話（052）972-4071 FAX（052）972-4141			農業センター delaふぁーむ 電話（052）801－5221 FAX（052）801－5222	設置区の 土木事務所

ふれあい農園（収穫体験農園）　（令和３年度実績）

農家が丹精込めて育てた農産物の収穫体験ができる農園です。トウモロコシやサツマイモ、ダイコン、ミカンなど季節ごとに募集しています。複数の農園をめぐり数種類の野菜を収穫するコースもあります。

	ふれあい農園（収穫体験農園）
開設数	１１か所
問合先	名古屋市都市農業課　電話（０５２）972－4071 FAX（０５２）972－4141

「農」の営みの支援

優良な農地を保全するために、生産基盤の整備に取り組み、農家への経営支援を行っています。また、市民の皆さんにも農家への支援に参加していただけるよう、栽培技術などが学べる講座を開設しています。

生産基盤の確保

市では、農業振興地域における農用地や市街化区域の生産緑地など優良な農地を保全します。また農業振興地域の水路改良などを行うことによって、米づくりを支援しています。

港区南陽地区の水田

農業用の水路

改良工事後

農業ボランティア育成講座

名古屋市内の農家のお手伝いを行う農業ボランティアを育成するため、農業ボランティア育成講座を開講しています。詳しくは農業センターdela ふぁーむへお問い合わせください。

育成講座での実習

チャレンジファーマーカレッジ

家庭菜園から一歩進んで、名古屋市内で農地を借りて耕作し品質の良い農産物の栽培を手掛けてみたい方や、定年帰農など市内で耕作を始める方に、必要な栽培技術を習得していただくために開催する講座です。貸し農園や家庭菜園などで農作業の経験のある方などを対象としています。詳しくは農業センターdela ふぁーむへお問い合わせください。

農業センターのキャラクター「なごっぴー」

お米づくりを体験できるイベントのご紹介

どちらも港区南陽地区で開催しています。

市民水田

主に手作業で稲作を行う体験水田です。農家などから指導を受け、田植えから収穫までの一連の作業をしていただきます。お米づくりを通して、収穫の喜びを味わったり、水田にすむ生き物を観察することができます。

田んぼアート

葉の色の異なる古代米等を使って、田んぼに絵を描く取り組みです。稲作体験、農家との交流、自然とのふれあいなど盛りだくさんの内容となっています。

詳しくは名古屋市都市農業課（Tel.972-4071 Fax.972-4141）へお問い合わせください。

（参考）名古屋市では、なごやの地産地消運動について、市民の関心を高め、理解を深めていただくために、名古屋市の農家が生産した野菜を「なごやさい」として、ＰＲしています

名古屋市の公式ウェブサイトのご案内

アドレス　http://www.city.nagoya.jp/

農業「なごや農あうネット」でも検索できます。

名古屋市 緑政土木局 都市農業課 ☎972-2466 令和４年４月 1,000部 発行　この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。